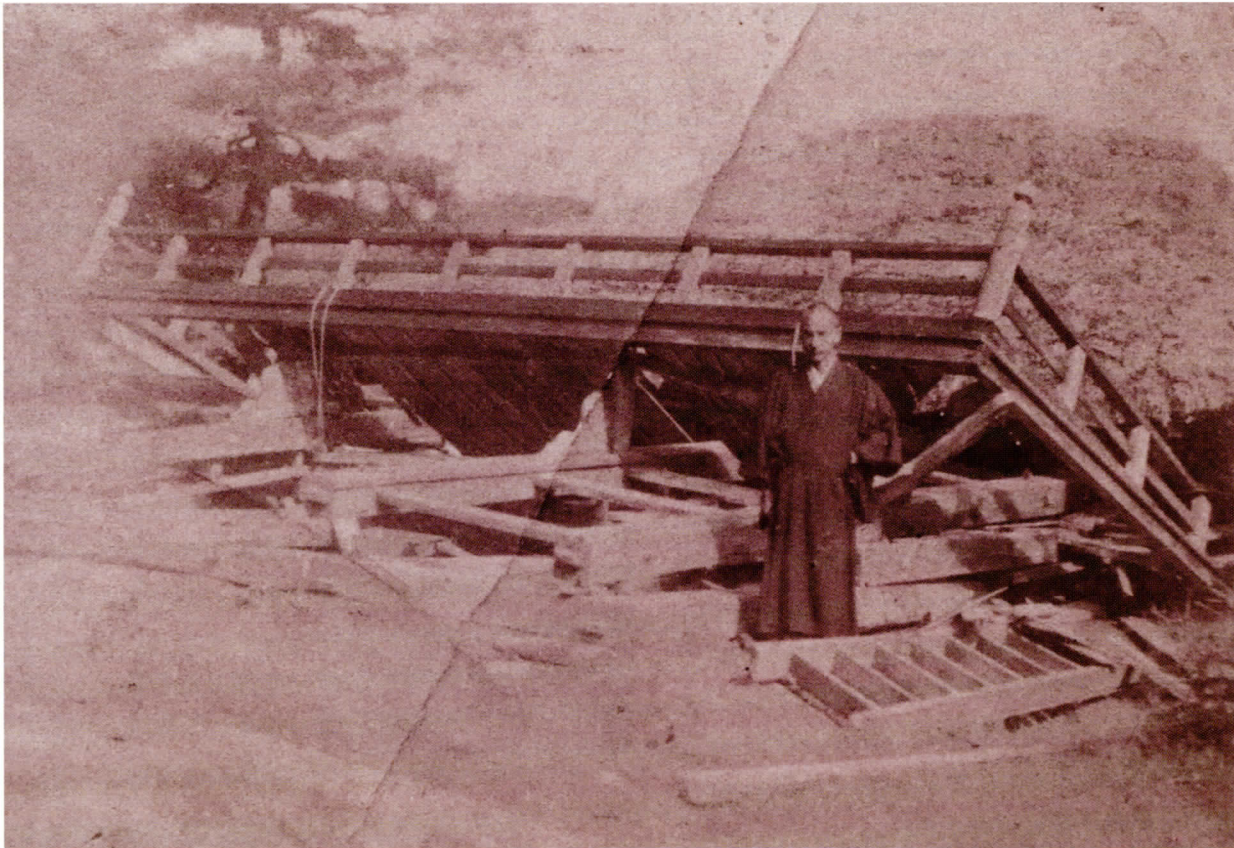


かん とう だい しん さい いな ぎ
関 東 大 震 災 と 稲 城

稲城市東長沼2111
☎042-378-2111
発行 2006. 2. 20



関東大震災で倒壊した常楽寺の鐘楼門（大正12年9月 常楽寺提供）

大正12（1923）年9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源とする大地震が発生しました。この大地震で発生した大火災によって、東京の下町は焼野原と化しました。大火災は三日間におよび、東京市（現在の東京23区）の約43%が焼失し、全焼家屋約30万戸、死者・行方不明者6万8660名、重軽傷者2万6268名におよびました。この関東大震災の被害は東京市だけでなく、周辺の地域にもおよびましたが、当時の三多摩地域や稲城村の状況を見てみましょう。

三多摩地域では南多摩郡での被害が大きかったようです。被害状況をまとめた『大正震災志（上）』（大正15年）によると、表のとおり現在の町田市域の村々や由木村（現八王子市）、多摩村（現多摩市）、稲城村での被害が目立ちます。南多摩郡の中でも、北部や西部地域での被害は少なく、特に神奈川県に接した南部地域での被害が大きかったことが判ります。

稲城村での被害を『大正震災志（上）』から見ると、全壊家屋178棟（うち住家45棟）、半壊家屋276棟（うち住家39棟）、死者1名、傷者2名が記録されています。民家や寺社の建物など多くの建物が倒壊し、村内の道路や橋なども大きな被害を受けました。稲城村での被害は三多摩地域の中でも大きかったようです。このような大震災の様子を記録していた村民がいました。矢野口の嘉山太郎作は日記のなかで大地震発生の様子を次のように記しています。「最初の地震が終って家の中を見ると、壁は落ち棚の上のものは散乱して足の踏み場もなく、しかも何回もの余震に驚かされ、丹誠をこめて育てた梨の実も大半が落ちてしまった」（要約・嘉山三郎家史料）。大丸の大久保文吉の日記では、次のように書かれています。「老母を抱えて

庭先の安全地帯と思う場所に避けた。老母はまだ齒の根も合わず震懼している。子供等は共に恐怖に打たれている。見ると神棚のお宮も達磨もほおり出され潰れている。戸棚のものはことごとく倒れる。庭先には小亀裂があった」(要約・大久保浩家史料)。大久保文吉の日記は続けて「大丸よりも百村・坂浜・平尾方面の方が被害が大きと聞いた。円照寺の土蔵、常楽寺の本堂・庫裏・土蔵・鐘楼・赤門が潰れた。ほとんど手のつけようがない」と記録しています。平尾の鈴木静輔の日記では「大震害あり。平尾では居宅の潰家が6戸あった。ほかに小家は無数潰れた。東京・横浜は全滅の報告があった。いたる所で亀裂や崖崩れがある。安政の地震より大きいといわれる」(要約・鈴木貢家史料『鈴木家日記四』より)と記されています。

また都心部の大火災は稲城村からも遠く望むことができました。大久保文吉の日記では、「東京方面に十数分おきに爆音が聞こえる。首を上げれば皇城のあたり一面に夕立雲か或いは白煙か、もくもくとして異様な空模様である。夕景になったらその空が真っ赤になって天を焦がすようで昼の如しだ」(要約・大久保浩家史料)。と記され、大地震のあとに起こった大火災のすさまじさを記録しています。

大正12年9月の村議会では、被害の大きい道路10か所、橋梁2か所の修繕を全額国庫補助金(6615円78銭5厘)で行うことが決定されました。また同年10月の村議会では、被害のあった役場・学校・隔離病舎などの建物の復旧予算(2099円55銭)の審議が行われ、特に坂浜の立志小学校の校舎被害が大きかったことが記録されています。

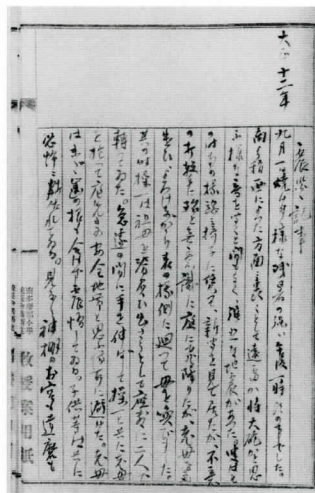
大地震の発生からまもなくして朝鮮人の暴動騒ぎという流言蜚語が異常なスピードで広まりました。稲城村では、「朝鮮人が川崎・町田方面から来襲する」という流言が広まりました。すでに9月1日の夕方には大丸方面に、2日の夕方には矢野口方面に伝わり、村人たちは刀剣や竹槍といった武器を準備して、その対応に追われました。しかし幸いにも朝鮮人殺傷という悲劇は起こらずに済みまし。

関東大震災によって、莫大な個人の財産や人命が失われ、多くの建物や道路・橋などが被害を受けましたが、何よりも一瞬にして崩壊した近代的な都市文明の脆弱さを明らかにした出来事でもありました。参考文献『稲城市史下巻』(稲城市)

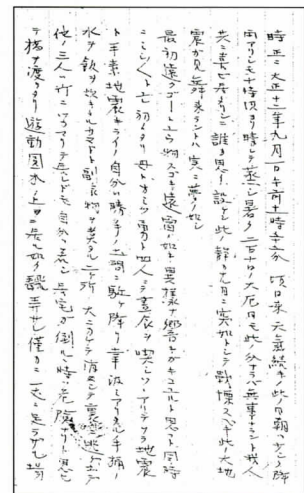
南多摩郡の被害

	家屋全潰				同半潰				死	傷
	住家	倉庫	その他	計	住家	倉庫	その他	計		
横山村	5	3	25	32	25	49	30	100	1	-
浅川村	1	-	-	1	5	37	2	43	-	-
元八王子村	2	1	5	8	-	-	-	-	-	1
恩方村	1	5	4	11	1	32	10	47	6	-
川口村	-	-	8	8	-	76	18	100	1	1
加住村	2	-	2	5	-	103	6	162	-	-
小宮村	-	1	4	5	1	79	19	99	1	2
日野村	4	2	2	7	7	3	-	4	-	2
七生村	3	4	5	14	3	90	10	109	-	1
由木村	37	17	90	141	81	88	57	211	-	1
多摩村	27	17	48	93	71	109	64	229	2	2
稲城村	45	11	120	178	39	50	165	276	1	2
川村	40	70	218	348	104	182	292	740	2	9
鶴川村	57	16	126	219	100	83	169	371	1	6
町田村	130	40	94	269	264	91	113	426	2	7
忠生村	70	45	190	306	150	196	193	543	5	4
堺井村	52	21	164	237	90	95	103	290	65	11
由井村	7	-	68	75	10	-	55	66	-	-
合計	482	252	1,173	1,957	926	1,361	1,306	3,816	28	47

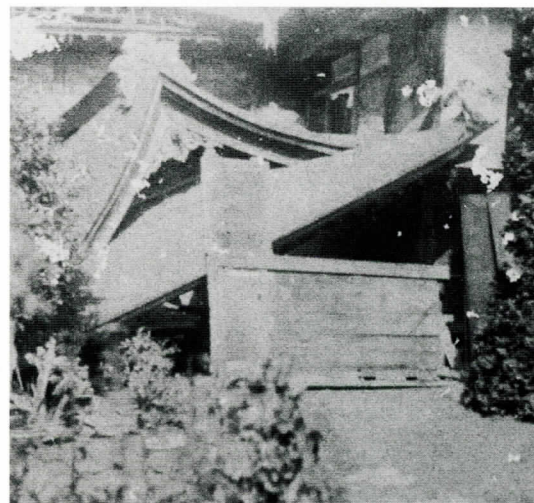
『大正震災志』(上), p.556-57. 表の数字の不整合は原史料のまま。



大久保文吉の日記



嘉山太郎作の日記



倒壊した常楽寺の庫裏(常楽寺提供)